

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目	地理
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉 本年度も論述問題が中心である。設問数は全9問で、昨年より2問分多い。2026年の論述問題の字数は合計920字であり、昨年より、70字多くなっている。ちなみに2025年は850字、2024年は1,030字だった。 〈特記事項・トピックス〉 2025年は100字2問、150字3問、200字1問の出題であったが、本年は、80字1問、100字2問、120字1問、150字1問、170字1問、200字1問である。論述内容特定のヒントとなるであろう。 〔2〕問4では、インドネシアの首都機能移転が出題された。 〈合格への学習対策〉 まず、授業で基本的な知識を確実に身につけたうえで、過去問を中心に論述の練習を積んでほしい。また出題量・パターンの似ている他大学の過去問も解いておきたい。80字から200字といった長文の論述問題を攻略するためには、知識だけではなく「書く力」も必要である。過去に出題された分野も含めて、偏りなく学習しておく必要がある。教科書・用語集・地図帳を活用した学習はもちろんのこと、時事問題については、新聞などにも目を通しておくことが望ましい。
--

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述・論述	東京からフランクフルトへの航空便に関する問題	問1 (1) サマータイムを考慮した所要時間。 (2) サマータイムの利点と欠点。 問2 ハブ空港の特徴。 問3 シェンゲン圏と非シェンゲン圏に向かう場合の空港での手続きの違い。 問4 東京からフランクフルトまでの飛行経路について。2010年代のシベリア上空を通過する経路をとった理由と2025年時点の北極海上空を通過する経路をとった理由。	易
〔2〕	選択・論述	東南アジアの地誌	問1 東南アジア大陸部の伝統的な農業の特徴。 問2 インドネシア、カンボジア、タイ、ベトナム4か国を総輸出額に占める衣類品輸出額の割合から判定。 問3 東南アジア諸国における工業化進展と衣類品生産の位置づけ。 問4 インドネシアにおける首都機能移転計画の背景。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。